

こんにゃくの需給とものの生産状況について

こんにゃくいもは東南アジア原産のサトイモ科の植物で、我が国では古くから栽培されている。2～3年かけて肥大した球状の地下茎（球茎）がこんにゃくの原料となる。

我が国におけるこんにゃくの2024年の需給量（精粉換算）は5,020tで、10年前の2014年の6,230tから約2割減少している（表-1）。このうち2024年の国産は約4,700t、輸入品が約400tで、国産シェアは約9割に上昇し高い。輸入量は、いもではミャンマーが中心で、製品では中国が主で輸入量の約8割を占めているが、いずれも減少している（表-2）。

我が国のこんにゃくは、中山間地域の基幹作物として重要な役割を担っているが、その栽培面積は長期的には減少傾向で推

移している。2025年産の収穫面積は前年比11%減、収穫量は前年比25%減の38,500tとなっている（表-3）。

収穫量の9割以上を占める群馬県では、栽培農家数が20年間で4分の1に減少する一方で、農家1戸当たりの作付面積が増加しており、5ha以上の大規模経営農家の割合は29.9%と3割が大規模経営となっている。

こんにゃくいもの生産に係る作業時間のうち、植付作業が14%、収穫・調製作業が39%と労働負担が大きい。特に収穫作業については、掘り取り、拾い上げ、選別工程を一貫して行う機械化体系が確立していないことから、大規模経営において雇用労働力の確保が大きな課題となっている。（K.O）

表-1 こんにゃくいもの供給状況（精粉換算）

2014年				2024年			
供給量 (t)	内訳			供給量 (t)	内訳		
	国産	輸入製粉	輸入製品		国産	輸入製粉	輸入製品
6,230	5,050	536	644	5,020	4,654	44	322
割合（%）	81	9	10	（%）	93	1	6

資料：（一財）日本こんにゃく協会「こんにゃくに関する資料」

表-2 こんにゃくいも・製品の国別輸入の状況（2025年度）

こんにゃくいも			こんにゃく製品				
輸入量(t)	ミャンマー	中国	輸入量(t)	中国	韓国	タイ	インドネシア
63	割合（%）		10,627	割合（%）			
	98	2		80	7	7	7

資料：財務省「貿易統計」

表-3 こんにゃくいもの栽培面積上位5県の生産状況（2025年産）

項 目	全国	群馬県	栃木県	茨城県	長野県	埼玉県
栽培面積(ha)	2,590	2,400	16	16	7	4
割合(%)	100	92.7	0.6	0.6	0.3	0.2
収穫量(t)	38,500	37,000	186	199	70	1
割合(%)	100	96.1	0.5	0.5	0.2	0.003
単収 (kg/10a)	2,310	2,400	1,896	1,439	1,607	33

資料：農林水産省「作物統計」